

(様式3の2)

## つくば市科学技術振興指針(第2期)(案)の背景・経緯等

つくば市科学技術振興部科学技術・特区推進課

### ○ 計画等を必要とする背景・提案に至るまでの経緯

市では市内に集積する科学技術をまちづくりにいかすことを目的として、平成24年10月に「つくば市科学技術振興指針」を策定した。同指針の計画期間満了に伴い、科学技術をこれまで以上に産業、農業、観光、文化、教育等の様々な分野に活用し、市民生活の向上に資することを目指して「つくば市科学技術振興指針(第2期)」を新たに策定する。

### ○ 他の自治体の類似する計画等の事例

- 第3期いばらき科学技術振興指針
- 東京都産業科学技術振興指針(第3期)
- 川崎市科学技術振興指針
- 長野県科学技術振興指針 等

### ○ 未来構想における根拠又は位置付け

「つくば市未来構想」の四つの理念の一つ「つくばの資源をいかし、世界へ貢献するまち」を実現するため指針を策定する。また、本指針を踏まえて、科学技術を既存の政策ベースに入れ込んでいくため、ほか三つの理念の実現にも寄与するものと考えられる。

### ○ 関係法令及び条例等

- 第5期科学技術基本計画
- つくば市認定国際戦略総合特別区域計画の推進に関する条例

### ○ 計画等の実施により予測される影響及び効果(算出できるものはコストを含む)

- 新サービス、新製品の開発による市民生活の向上
- 産業創出による、雇用創出及び税収増加
- 科学技術に触れる機会の充実による、教育・学習機会の増加
- 科学の街としてのブランド力向上による、つくば市民としての誇りの形成(シビックプライド)





つくば市  
**科学技術振興指針（案）**

Science and Technology Promotion Guidelines

（第2期）  
**【概要版】**

平成29年 月



つくば市

## 第1章 目指すまちの姿

- 市民第一の方針のもと、世界に比肩する「知」・「技」の集積をいかした取組により、地域の隅々まで健康と幸福があふれるまちを目指す。
- この理念が地域に根付き、未来の子どもたちに引き継がれるよう、市内のあらゆるものが繋がり(ソーシャルキャピタル)、地域に誇りや愛着をもつこと(シビックプライド)で、地域全体が「結」び付く社会を実現する。

### 基本理念:「知」・「技」・「結」のちからで未来の社会をつくるまち

#### 《目指すまちの姿》

##### 【我が国の発展や世界的課題の解決に貢献するまち】

世界レベルの人材・知による解決策を提供することで、日本の発展や世界的課題の解決に貢献するまち

##### 【共助・共創により成長し続けるまち】

市民と研究者等が一丸となり、地域経済の活性化や地域が抱える課題の解決に取り組むまち

##### 【未来をつくる人と文化が育つまち】

科学技術と触れ合い、感じ、学ぶことを通じ、あらゆる世代がつながり、コミュニティが形成され、未来をつくる人や文化が育つまち

- ◆ 目指すまちの姿の実現に向けた今後5年間の活動の基本方針を示し、重点事項に集中的に取り組む。
- ◆ 市民、企業、大学・研究機関、つくばグローバルイノベーション推進機構(TGI)、関連団体、国、茨城県等と目標を共有し、互いに繋がり合い、取組を推進する。

## 第2章 実績及び課題

### これまでの主な実績

- つくば国際戦略総合特区等の国家プロジェクトの推進。
- TGIの設立およびつくばイノベーションプラザ(TIP)の設置。
- つくばモビリティロボット実験特区における取組推進および全国展開への貢献やつくばチャレンジの開催。
- 生活支援ロボットの普及促進。
- つくば市トライアル発注認定制度の創設やつくば創業支援ネットワークの構築。
- G7茨城・つくば科学技術大臣会合やハイレベルフォーラムの開催・参画。
- イノベーションキャンパス in つくば, 科学オリンピック等の開催。
- 科学教育マイスター制度等を通じた研究機関のアウトリーチ活動支援。
- 筑波山地域ジオパークの推進。

### 今後の主な課題

- ロボットなど実証実験の先駆者としてのプレゼンスを保持・向上する未来の社会像を見据えた先進的フィールド実験の強化。
- 国の成長や世界課題解決に貢献するつくばならではのハイインパクトな大規模プロジェクトの推進。
- 地域イノベーション創出に向け、各機関の連携強化や、様々な課題を呼び込むことを実現するための、TGIの機能強化。
- 技術シーズを製品・サービス化するコーディネーター等の経営人材等の確保。
- 行政課題への技術シーズの導入や、つくば発のスタートアップや地域企業の支援による域経済の活性化や地域課題の解決の促進。
- 組織・分野・国籍・性別等を越えたネットワークの構築による研究者の成長の促進。
- 科学のまちとして発展するための市民が科学技術と触れ合う機会の充実。
- G7茨城・つくば科学技術大臣会合のレガシー（経験・実績・プレゼンス等）の活用。

## 第3章 国内外の動向等

国 外	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国連が「持続可能な開発目標(SDGs)」を提示。</li> <li>● G7茨城・つくば科学技術大臣会合における共同声明「つくばコミュニケ」の採択。</li> <li>● ドイツの「インダストリー4.0」や米国の「先進製造パートナーシップ」等ものづくり革命。</li> </ul>
国 内	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 政府は、「Society5.0」を提唱し「超スマート社会」の実現や「第4次産業革命」の推進を明記。つくば市内では、産業技術総合研究所(産総研)や筑波大学等、「Society5.0」の実現に関する取組が急速に進展。</li> <li>● 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた様々な活動の活発化。</li> <li>● 神戸や北九州など、主要都市のオープンイノベーション体制の構築が進展。</li> </ul>

## 第4章・第5章 基本方針及び主な取組

### 1 未来社会を先導する先進的課題への挑戦

#### 【超スマート社会に向けた先進的取組の推進】

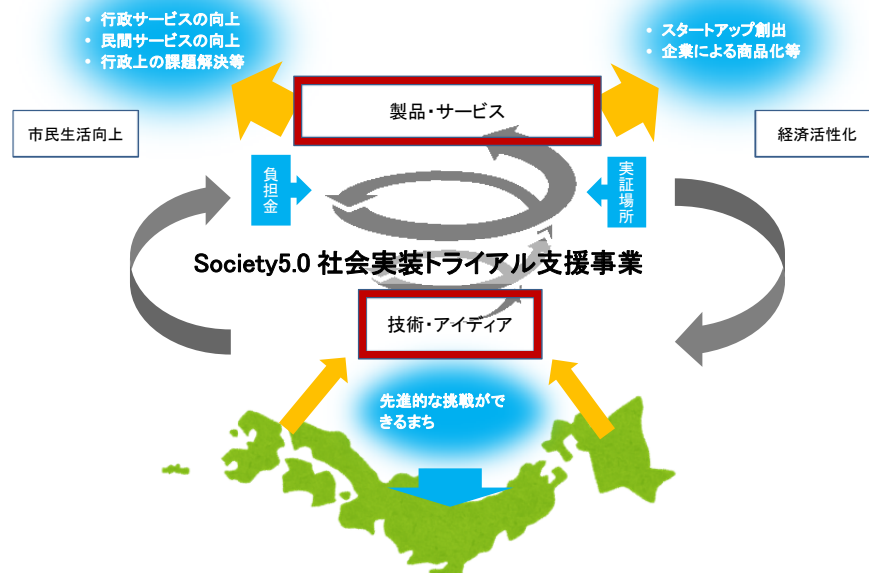
- 「Society5.0」や「持続可能な開発目標(SDGs)」に関するフィールド実験の提案・相談を受け付けるワンストップ窓口を設置し、全国の意欲的な取組を呼び込む。
- 筑波大学や産総研等による人工知能を活用した新たな社会システム構築等に関する活動のサポートや、健康長寿の未来のまちづくりを CYBERDYNE(株)等と連携・協力し推進。

#### 【ロボットの街つくばの推進】

- パーソナルモビリティ等の様々なロボットが自由自在に活動する「ロボットクロスロード」(仮称)実験の推進や、つくばチャレンジの新たな展開など、人とロボットが共存する新しい社会システムの構築を加速。

#### 【優れた技術シーズの地域課題への活用】

- 新品種開発・新農法等と、意欲ある農業関係者と大学・研究機関等とのマッチングによる「農業×科学技術」の実現及び普及の促進。
- 生活支援ロボット普及促進事業スキームの活用による地域課題の解決を促進。



Society5.0 社会実装トライアル支援事業のイメージ

#### 【5年後の目標】

- ◆ 未来社会を先取りした唯一無二の「実験場」としてのプレゼンスの確立
- ◆ 市民が恩恵を実感できるような研究成果の社会還元

## 2 地域イノベーションを推進する共創・成長の促進

### 【地域イノベーション推進の中核機能の強化や広域連携の推進】

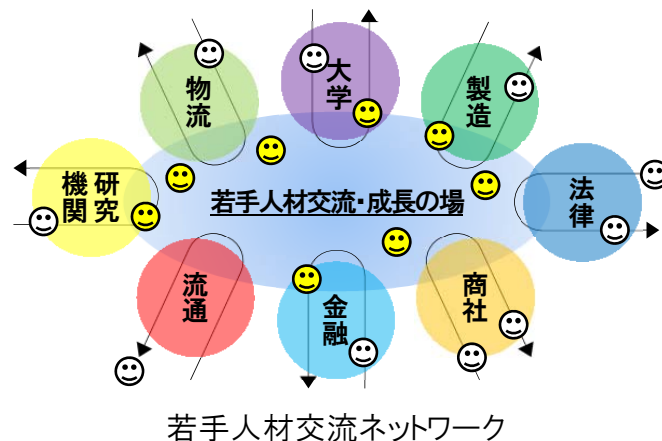
- TGI が地域イノベーションの中核機関としての役割を果たすために、成功事例の創出や連携メリットの見える化を推進。
- TIA との連携を強化しイノベーションコリドー構想の実現を支援するなど、広域連携の推進。

### 【つくば国際戦略総合特区の推進】

- 特区プロジェクトから製品化・事業化等の目に見える成果を創出するために、茨城県・TGI と連携し、特区制度に基づく規制緩和や税の減免措置等を推進。

### 【未来を担う人材育成や地域企業等の創業・成長支援】

- つくばの未来を担う若手研究者が、大学・研究機関のみならず、金融・法律・商社等の業種・分野・組織の枠を超えて交流しネットワークを構築するとともに成長する場の形成、および女性研究者の活躍促進を支援。
- つくば発ベンチャー企業の創業・育成や地元の研究開発型企业等の成長支援。



### 【5年後の目標】

- ◆ 地域連携の強化と人・モノ・金を呼び込むための成功事例の創出・連携メリットの見える化
- ◆ つくばを中心に、多種多様な考え方や専門性を持ったあらゆる人々が繋がるオープンイノベーション体制の構築
- ◆ 次代を担う科学技術イノベーション人材の育成や地域企業等の創業・成長

### 3 科学技術を通じた市民の交流・学びの促進

#### 【最先端科学技術を体感・学習できる機会の充実】

- つくば科学万博記念財団や大学・研究機関等が一体となり、子どもから大人までが最先端の科学技術を体感・学習できる場の形成の推進。
- スポーツ・芸術・文化等の各種イベントと科学技術のコラボレーションを推進し、科学技術を介してあらゆる層の人々が双方向につながり合うマルチ方向コミュニケーションを促進。

#### 【大学・研究機関・民間企業等と市民との架け橋となる取組を推進】

- 大学・研究機関・民間企業等のアウトリーチ活動と、学校教育・生涯学習等の市民ニーズのマッチングを推進。

#### 【科学技術を活用した教育機会の充実】

- つくばスタイル科の充実や、筑波山地域ジオパーク等の地域資源を活用した教育機会の拡大の推進。

#### 【街ぐるみでの研究者等の支援】

- つくばに関係する研究者が、つくばに愛着を持ちつくばの一員としての誇りを実感できるよう「つくば賞」「つくば奨励賞」等の表彰制度等を推進し、街ぐるみで研究者等を応援。



最先端の科学技術の体感・学習

#### 【5年後の目標】

- ◆ 日本一，科学技術を身近に体験・学習できるまちの実現
- ◆ 「科学技術×○▲□」(科学技術と他分野融合)の市民生活への浸透



## 4 つくばブランディングアプローチの推進

### 【つくばの魅力を結集した成果の見える化や情報発信の推進】

- つくばの優れた成果や世界最先端の研究施設、有望な技術シーズ、ベンチャー企業等、つくばの科学技術の魅力を結集し、市内外に効果的に発信するオールつくばプロジェクトを実施。東京圏をはじめとした国内外から人材・知・資金を呼び込むとともに、科学技術のまちとしての誇り・愛着を醸成し、市民や研究者等で共有。

### 【国内外の地域・企業への情報発信の推進】

- グローバル MICE 等を通じて積極的につくばの魅力を発信し、国内外の拠点との連携強化を推進。



### 【5年後の目標】

- ◆ 科学技術イノベーション拠点としてのつくばの魅力を伝える「つくばブランド」の確立
- ◆ つくばに集うあらゆる人が、つくばの一員であることを誇りに感じる「つくばプライド」の確立
- ◆ 東京圏をはじめとした、国内外の自治体・機関との連携拡大

## 第6章 推進方策

- 取組ごとに5年間のロードマップを作成し、スケジュールおよび達成目標、関係機関等を明確化。隔年ごとに進捗状況を確認し、ロードマップに反映。

